

第21回 東西四大学 OB合唱連盟演奏会

関西学院大学・早稲田大学・同志社大学・慶應義塾大学



2017年7月23日(日)
昭和女子大学 人見記念講堂

ご挨拶

本日は第21回東西四大学OB合唱連盟演奏会にご来場くださいますして誠にありがとうございます。

OB四連は、1977年（昭和52年）に第1回演奏会を開催致しました。今年で66回を数える私たちのルーツである現役四連は、1952年（昭和27年）に第1回演奏会を挙行しています。当時は、戦後の混乱から脱しきれず食料も配給制であった時期でしたが、未来を信じる東西の若者たちが苦難を乗り越え手に手を取って結成したのが四連でした。現役四連創立から25年の歳月が流れ、四校OBが永らく待ち望んでいたOB四連演奏会の開催となりました。以来40年、本日までこのように演奏会を続けることができましたのは、一重に客席の皆様の暖かいご声援の賜物と重ねて感謝申し上げます。

2年に一度、四校が東西幹事持ち回りで進めておりますこの演奏会も第21回、6廻り目という事で、初心に立ち返ってみようとのこととなりました。OB四連を設立し初めて演奏会を開催した時の熱い思いやOB四連旗（ペナント）に象徴される「OB四連はひとつ」とのコンセプトを客席の皆様にお伝えできないか、ステージに立つ演奏者一人一人が改めて感じる事ができないか。その思いを込めて、第一回演奏会を念頭に今回のステージ構成を行いました。これまでと一味違うOB四連をお楽しみいただければ幸いです。

四団体は、これからも各団それぞれに音楽の高みを目指し、共に切磋琢磨して演奏活動に邁進致します。と同時に「OB四連はひとつ」の理念を皆が堅持し、OB四連の絆で結ばれた仲間として前進して参りますので、今後ともOB四連、そして各団へのご支援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

2017年7月23日
東西四大学OB合唱連盟



OB四連



関西学院大学学長
村田 治



早稲田大学総長
鎌田 薫



同志社大学学長
松岡 敬



慶應義塾長
長谷山 彰

第21回東西四大学OB合唱連盟演奏会が開催されますこと、関西学院大学を代表しまして、心からお慶び申し上げます。学生時代に毎年開催している交歓演奏会を、現役時代のみにとどまらず、卒業後それぞれの合唱団が切磋琢磨しあいながらも絆を深め、今日まで息長く続けられたことに、深く敬意を表します。

関西学院グリークラブは、関西学院創立の10年後（1899年）に創部され、わが国で最も長い歴史を持つ男声合唱団として活動を続けてきました。昨年の全日本合唱コンクールにおいては、男声、女声、混声を通しての最優秀の演奏に与えられる文部科学大臣省を受賞して、見事日本一に輝きました。そのハーモニーは、本学にとって欠かすことのできない、かけがえのない貴重な存在となっています。今後も本学の精神を体現する存在として、さらなる発展を願ってやみません。

本日、お忙しい中、ご来場いただいた皆様にも、ますます磨きのかかった演奏をお聴きいただけるのではないかと期待しております。

最後になりましたが、本日の演奏会の成功と、東西四大学OB合唱連盟の今後ますますのご発展、そして各合唱団の友情が、さらに深まることを心よりお祈り申し上げます。

第21回東西四大学OB合唱連盟演奏会が開催されますことを、早稲田大学を代表して心からお慶び申し上げます。本日の演奏会開催のためにご尽力いただきました全ての関係者の皆さまに深く御礼を申し上げます。

早稲田大学グリークラブは、110年の歴史を誇る国内屈指の大学男声合唱団として知られていますが、そのOB会である稲門グリークラブも65年の歴史を持ち、各地で演奏活動を続けています。

私が全国の校友会の支部総会に出張した際にも、グリークラブのOBの方々にお会いしたり、その地域の稲門グリークラブが歌声を聴かせてくれたり、ということがしばしばあります。

今回の演奏会では、半世紀近く前に現役の早稲田大学グリークラブが委嘱・初演した男声合唱組曲「北斗の海」を歌うことになりました。ご来場の皆さまには学生とはひと味違う大人のコーラスの響きを楽しんでいただければと思います。

最後になりますが、東西四大学OB合唱連盟のさらなるご発展とご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

第21回東西四大学OB合唱連盟演奏会が、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。平素は、本学に対しましてご厚情、ご支援を賜わり、誠にありがとうございます。教職員を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。

クローバークラブは1954年（昭和29年）の創立以来、本年で63年目を迎えられます。その活動の一環として、東西四大学合唱団OBの方々による相互の協力と並々ならぬ努力によって演奏会を継続してこられました。皆様の情熱あふれる活動に対し、同志社大学学長として、深く敬意を表する次第です。

本日は、日頃の成果を存分に発揮し、素晴らしい歌声を披露していただきたいと思います。そして、聴衆の皆様にも夢や感動をお届けすることができれば、これに勝る喜びはございません。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらずご来場いただきました観客の皆様をはじめ、本演奏会関係各位の皆様の多大なご尽力に深く感謝申し上げます。本日の演奏会の成功と、東西四大学OB合唱連盟の今後ますますの発展、そして四大学合唱団の親交がさらに深まることを心からお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

本日ここに東西四大学OB合唱連盟演奏会が開催されますことを、慶應義塾を代表して心からお慶び申し上げます。

本演奏会も回を重ね、今回で第21回を数えることとなりましたが、それは、本日ご来場の方々をはじめ多数の方のご支援のもと、卒業後も合唱への情熱を持ち続け、さまざまな苦難を乗り越えて研鑽を積んできた皆さまの努力の結晶にほかなりません。多忙な日常の中で練習に励まれ、人生における豊かな経験と世の中にむけた深いまなざしをもつ皆さまによる演奏会であるからこそ、聴衆の心を震わせ、感動の記憶として一人ひとりの胸に残り続けるのでしょう。

また、東西四大学の皆さまが、同じ「音楽を愛するもの」として心をひとつにし、40年以上の長きにわたって本演奏会を通じた交流を重ねてこられました。今後もそれぞれの伝統を守りつつも互いに切磋琢磨しながら進化を続け、四校の絆が一層強いものとなりますことを願っております。これから披露される演奏では、その日々の成果が遺憾なく発揮され、会場が一体となって音楽のもたらす感動を分かちあえるものと信じております。

最後になりましたが、本日のご盛会と貴連盟のますますの発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

Program

オープニング : **Gaudeamus** (ガウデアムス)

第 1 ステージ 新月会 (関西学院)

男声合唱組曲 **「アイヌのウポポ」**

採譜 : 近藤 鏡二郎 / 作曲 : 清水 脩 / 指揮 : 広瀬 康夫



- I. くじら祭り
- II. イヨマンテ (熊祭り)
- III. ピリカ ピリカ
- IV. 日食月食に祈るうた
- V. 恋歌
- VI. 輪舞

第 2 ステージ 稲門グリークラブ (早稲田)

男声合唱組曲 **「北斗の海」**

作詩 : 草野 心平 / 作曲 : 多田 武彦 / 指揮 : 岡本 俊久



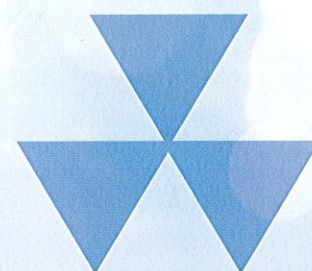
- I. Bering-fantasy
- II. 窓
- III. 風景
- IV. 海
- V. エリモ岬

— Intermission —

第 3 ステージ クローバークラブ (同志社)

「Messe Solennelle ~ 荘厳ミサ ~」 より

作曲 : A. デュオパ / 指揮 : 小久保 大輔



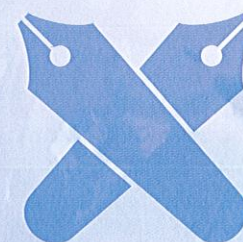
- I. Kyrie
- II. Gloria
- III. Sanctus
- IV. O Salutaris
- V. Agnus Dei
- VI. Pie Jesu

第 4 ステージ 慶應義塾

ワグネル・ソサイエティーOB合唱団

男声合唱とピアノのための **「ジプシーの歌」**

作詩 : A. ヘイドゥーク / 作曲 : A. ドヴォルジャーク / 編曲 : 福永 陽一郎
指揮 : 佐藤 正浩 / ピアノ : 前田 勝則



- I. Mein Lied ertönt / おれの歌がひびく
- II. Ei, wie mein Triangel / どうだい、おれのトライアングルは、
- III. Rings ist der Wald / あたりの森はひっそりと静まり
- IV. Als die alte Mutter / 年老いたお袋が歌を教えてくれた時、
- V. Reingestimmt die Saiten / 弦の調子をぴちっと合わせろ
- VI. In dem weiten, breiten, luft'gen Leinenkleide
ゆったりと巾の広い軽い服を着ている方が、
- VII. Darf des Falken Schwinge / 鷹の翼はタトラ山の頂の周りで

第 5 ステージ 合同演奏



のぞみ
希望の島

斎太郎節

男声合唱組曲「アイヌのウポポ」

採譜：近藤 鏡二郎／作曲：清水 脩／指揮：広瀬 康夫

「アイヌのウポポ」演奏に際して

東西OB四連での演奏記録としては1997年（新月会）、2007年（稲門グリークラブ）に続いて3度目の登場（奇しくもまた10年目）となります。演奏されるたびに違った顔を見せるウポポ（歌）をお楽しみください。一見（一聴）難易度が高そうに聴こえるテクニカルな面よりも、メンタルな表現においてこれほどの難曲は無いと感じています。私なりのアイヌ文化への理解や共感を込めて精一杯表現したいと思います。 広瀬 康夫

曲目解説

清水脩の男声合唱曲において「月光とピエロ」と比肩し得る優れた作品として有名なのが「アイヌのウポポ」である。1961年春、立教大学グリークラブからの依頼により同年10月23日に脱稿、12月3日に初演されたこの曲は、1965年9月、ニューヨークのリンカーン・センターで催された第1回世界大学合唱祭に招かれて渡米した関西学院グリークラブにより北村協一の指揮で演奏され絶賛を博した。「ウポポ」とはアイヌ語で「歌」を意味するが、アイヌ研究家近藤鏡二郎氏の採集した楽譜『アイヌの歌—民謡と解説物語—第1集』（1960年出版）をもとに作られた作品の中でも「アイヌのウポポ」は最も成功した作品とされる。合唱音楽としての音楽性に加え、アイヌへの理解が希薄であった当時、近藤氏の日本語意識を採らず歌詞の全てをアイヌ語に戻した作曲は、アイヌ文化の独自性を尊重したものといえる。

I. くじら祭り：登別のフンベ山、室蘭イタンキ岬のフンベ島などの地名にも用いられる「フンベ」とは鯨のことである。くじら祭りは、鯨の魂に対する祭りの踊りの歌であり、北海道には鯨にまつわる伝説もいくつか残る。浜辺に打ち上げられた「寄りクジラ」は、アイヌにとって食料として海からの貴重な賜物であった。この曲はそれを真っ先に人間に知らせる鳥のまねをした人が、鯨の役でうすくまった人のまわりを羽根のように両手を広げて踊りながら歌うものである。アイヌ本来のわずか3音からなる民族音階の旋律だが、それに気付かせない程効果的な編曲がなされている。

II. イヨマンテ（熊祭り）：「イヨマンテ」（イ・オマンテ：それを送る）とは熊を送る儀式とシマフクロウを送る儀式のこと。美味な肉を土産に人間の世界に遊びに来たカムイ（神である熊たち）に様々な御馳走や贈り物をし、ウポポ（踊り歌）やリムセ（踊り）で楽しんでもらう。祭りの終わりには、カムイが無事に神たちの住む自然に帰れるようにカムイ・ノミ（神を送ること、或いは神に人間の世界を振り向いてもらうこと）して帰ってもらう。このような意味の儀礼だが、小熊を檻の中に入れてその回りで手拍子をうちながら踊り、最後には花矢を射かけて小熊を殺すため、「野蛮な風習」として1955年3月に北海道庁より禁止が通達された。しかしその後2013年4月に「イヨマンテは祭式儀礼に該当する」と、禁止通達は撤廃された。

III. ピリカ ピリカ：「ピリカ」とは「良い、きれい」の意味。アイヌの歌で一番知られているものとして北海道各地で現在も歌い継がれている。わらべうたもあるが、雪村いずみの歌った芸術祭受賞レコードにより恋の歌として一時期流行歌となり、「ピリカ＝美人」の理解が流布した。この曲だけは、外国人宣教師がアイヌ部落の子供に教えた賛美歌がアイヌ式に転化したものと思われる。

IV. 日食月食に祈るうた：自然と親しむアイヌの人たちは、自然を人間と等しく魂を持ち生活する存在である「カムイ（神）」と見なしていた。日本や中国における「贄（にえ）」（神に生き物の命を捧げること）とは根本的に異なる思想である。アイヌの民話でまだ地上に何も無い頃のこと。天上界の神々が平和な大地を作るための会議をして国造りの神等を遣わしたところ、下界には既に悪魔や魔神達が暗黒の国を作って住み着いていた。太陽の神の光を嫌う魔神達は暗闇の夜に起き出しては神々の作る国土をたたき壊してしまうのが、神の子アイヌ・ラックルを中心としてそれが退けられた。もし「太陽の神の光」が失われれば反自然の存在である魔神達の跳梁する世界が再びやってくるわけであり、日食や月食、特に日食で天地が暗くなるときの恐怖には想像を絶するものがあったのだろう。

V. 恋歌：「ヤイ・サマ・ネナ」は「私は自分の心を歌います」の意。夜の語りや歌いの集いの場で誰かが個人的な感情を旋律をつけて吐露するのが「ヤイサマ」であり、「ヤイ・サマ・ネナ」はそれを促す言葉でもある。この「ヤイサマ」は文字通り恋歌なのだが、和人により強制労働に駆り出されて引き裂かれた男女の心が背後には隠されている。アイヌへの和人の虐待を痛烈に物語るものとして、寛政時代の2,000人から60年後の安政時代の700人程までのアイヌの人口の減少という事実も残るが、そうした虐待の生み出した恋歌はアイヌに数々伝わっている。

VI. 輪舞：この曲は近藤氏の編曲指揮の下に1958年春にNHK札幌放送合唱団により初放送され、1959年春、ウィーン少年合唱団来日時、札幌で団員に紹介され指揮者マイヤー氏を通じて合唱団に献曲された。清水脩のメモには「熊祭りや祝の時に円く輪になって踊りながら歌う。源歌は3部または4部の合唱となっている。リズムの変化を充分に出すこと」とある。「囃し言葉」が主で歌詞の正確な意味はつかめないが、アイヌの人々のコーラスの伝統の一面が味わえる。

I. くじら祭り

フンベ ヤン ナ フンボエ
ベシタ ヤン ナ フンボエ
イン カノ ウタル フンボエ
サバ イン カル フンボエ

（鯨が浜に上ったよ、目の見える人たち、
岬で見てきておくれ）

II. イヨマンテ（熊祭り）

ハエグデソオロ ハ！ ハ！

ハウオ ハエタアタ

ハエグデランナ ハ！ ハ！

ハウオ ハエタアタ

（歌詞の意味不明）

III. ピリカ ピリカ

ピリカ ピリカ

タン ト シリ ピリカ

イナン クル ピリカ

ヌンケ クス ネ

（今日はよいお天気だ、どなたが好き、
えらんであげよ）

IV. 日食月食に祈るうた

チュブ カムイ ホイ

エ ライ ナ ホイ

ヤイヌ パ ホーキワ ホイ

（光の神さまよ、あなたは死んで
しまわれた、みなあなたが生き
返るのを祈っています）



VI. 輪舞

ホイヤ ホイヤ

ハラハオ ホイヤ ホイヤハオ ホイヤ

チャ ホラレン チャ ホイヤ

カリニカ ホラリ カリニカ ホラリ

ヘハンネ ヘハンネ ネ ヘハンネ

ホクン ハイ ホクン

ハイクル ハフンフ （ホロロロ……）

ヘヤ ペエ チャナ チャナ ペエ チャナ チャナ （ホロロロ……）

トンギッポ ハラヘ トンギッポ ハラヘ

ホワホイ ハイキョ ホワホイ ハイキョ （ホロロロ……）

ホマ ホマ ホイエ ホマ ホマ ホイエ

（すべて掛け声や囃子言葉、ホロロロ……は鶴の鳴き声の真似）



作曲 清水 脩

大阪天王寺の浄土真宗大谷派寺院において四天王寺舞楽の楽人を父親として1911年（明治44年）11月4日に生まれ、少年の頃はそこで子供の舞いを舞ったりもした。中学時代から音楽を志すが、初めて生の管弦楽を聴いたのは小学6年の時であり、モソロフの「鑄鉄」に非常に大きなショックを受けている。中学3年の頃に富樫義海についてピアノを習得。大阪外語大学時代には同校グリークラブにおいて指揮者を務めた。昭和12年東京音楽学校（現東京芸術大学）選科に籍を置き、橋本邦彦に作曲を師事、細川碧に理論を学ぶ。昭和15年第4回音楽コンクール作曲部門で「花に寄せたる舞踏組曲」が一位入選。翌年、大日本産業報国会に務め昭和20年に同会常任理事となる。戦後解散後は音楽之友社編集部長を一年近く務めた。こうした中で戦後の全日本合唱連盟創設に加わり、日本宗教音楽協会を造り、東京男声合唱団の主宰など多彩な活動を続けた。

採譜 近藤 鏡二郎

1913年9月20日生まれ、本名、近藤善兵衛、宮城県出身。青年時代にわらべ歌を研究、1944年に千島の色丹島でアイヌの歌を聞いてからアイヌ民謡の研究を志し、1960年に『アイヌの歌—民謡と解説物語—第1集』を音楽之友社から出版。その後も言語の研究に携わり、『アイヌのユーカラ—沙流地方の伝承』（1962）、『言語のリズム—その表記法と応用・分析』（1964）、『言語のリズム法』（1974）といった著作がある。

指揮 広瀬 康夫



神戸に生まれる。関西学院高等部を経て関西学院大学経済学部を卒業。グリークラブでは学生指揮者を務める。1987年より関西学院に勤務し、グリークラブをはじめ多くの合唱団の指導にあたり、全日本合唱連盟などの講師・審査員を務める。また四重唱のユニットや独唱者としても活動する。1999年、BHS（Barber shop Harmony Society）に登録し、日本でのパーバーストップハーモニーの普及に努めている。

故北村協一氏に指揮法を、大久保昭男氏、井上和世氏に声楽を、Egisto Matteucci氏に教会音楽および合唱指導を師事。現在、関西学院グリークラブ技術顧問・指揮者、新月会指揮者・副会長、コール・セコインデ常任指揮者、金沢メンネルコール客演指揮者、九州フレッシュメンコア テクニカルアドバイザー、グリークラブ香川技術顧問、日本男声合唱協会（JAMCA）個人会員、平成指揮者の会同人、BHS（本部アメリカ）会員、パーバーストップカルテットSTARGAZER、KALEIDOSCOPE主宰。

男声合唱組曲「北斗の海」

作詩：草野 心平／作曲：多田 武彦／指揮：岡本 俊久

草野心平と「北斗の海」について

草野心平は、20世紀目の1899年、福島県に生まれました。磐城高校を中退後、慶應義塾大学に進学しますが、こども中退し、中国の広東嶺南大学に進学しました。このころから、詩を書き始めています。

「北斗の海」に採用された詩集「絶景」は、戦中の1940年に、「天」は戦後の1950年に出版されました。心平の詩といえば、「蛙」と「富士山」が有名ですが、それらの中でも、「天」や「空」について多くの景色が紹介されていて、それらの輝きが時間の経過によって変わっていく地上の「風景」とその色彩が多く語られています。

「北斗の海」の詩は、詩集「絶景」と「天」に収められた中から採られました。Ⅰの「Bering-fantasy」Ⅱの「窓」は「絶景」から、Ⅲ「風景」Ⅴ「エリモ岬」は「天」から……。その後「海」を、またまた「絶景」から採り、四番目に配置されました。

「北斗の海」は、昭和43年、早稲田大学グリークラブが多田武彦先生に委嘱しその年の定期演奏会で初演した作品です。その時は、現在の第Ⅳ楽章がなく、4曲からなる組曲として演奏されました。

しかし、その後、昭和52年には、また、早稲田大学グリークラブが多田武彦先生に依頼し、新たに「海」を加え、現在は5曲からなる組曲となり、男声合唱組曲として多くのグループに演奏されています。

昭和52年の東西四連で演奏された時に、この曲の表題である「北斗の海」について、多田武彦先生が語っています。もともと「北斗の海」という詩はありません。作曲家の多田武彦先生が草野心平の自宅に訪問し、草野心平本人が組曲としての表題を付けたということです。

曲目解説

Ⅰ. Bering-fantasy：草野心平はベーリング海は見たことがないはず。この詩は、数年前に亡くなった宮沢賢治の影響を受けた詩であると言われています。荒れ狂う波の音と垂れこめた雲、風が咆えまくる北の海に吹雪が舞っている姿が、ポルタメントの連続で描写されます。そしてその海原に雪が降り、そこにも黒と白との色彩の対比が表され、死への道を進んでいく人間の宿命が暗示されています。

Ⅱ. 窓：一転、この海の波は静寂を持って始まります。寄せては返す波を世の中で役に立たない物や汚いものを浄化し、暗い入り江に集めるものとして、しかも、限りなく往復を繰り返す悠久のものとして表現しています。また、その波の動きをゆっくりとらえ、まるで絵画に出てくるような風景を表現しています。

Ⅲ. 風景：長閑な風景から、この章では黒く、暗い海が展開されます。この章で、やっと心平が好んで使った「微塵」（みじん）という言葉が出てきます。そしてついに「天」が出てきます。空中に飛び散る「微塵」はここでは黒。空の色を変え、それが黒ガラスにたとえられて海に散っていくことで、生の儚さと海に落ちる瞬間の輝きを表現しています。

Ⅳ. 海：先にも述べましたが、この曲は後に付け加えられたものですが、詩はこちらが先に作られました。この曲にも「微塵」という言葉が効果的に使われています。世の中の悲しみが「微塵」となって、海の底に沈んでいくという言葉に、心平の悲しみが表されています。天から海底までの「微塵」が落ちて行く様を表現していますが、ここには「七色の縞」と、鮮やかな虹が出てきます。今までの荒れた、黒い海にも、海に落ちる瞬間の光が表現されています。

Ⅴ. エリモ岬：今や観光地となった襟裳岬ですが、あの時代はまだまだ人のいない場所だったのでしょうか。第Ⅴ楽章に入って、やっと鮮やかな色彩が描かれています。また、地名を詩の表題に冠しているだけあって、さすがにこの詩には、具体的な表現が多く出てきます。エゾヒメタンポポの黄色やセビア色のゆるい丘、それに昆布の黒、ウルトラメールの海。さまざまな色が表現され、その締めが真っ白な灯台の「白チョーク」。今まで、黒を基調としていた色彩が、この章で明るい色に変化して終幕を迎えます。様々な色彩の中に立つ純白の灯台。それがとても印象的に表現されています。

Ⅰ. Bering-fantasy

1 海は己の海鳴りをきき。
天は己の天をみつめ。

なだれる波に波はくづれ。
天はどこまでもの天につづき。
海は非情の海鳴りをきき。
天は非情のから鳴りをきき。

2 月すべる。
冰山。
ふざけ。
たわむる。
鯨。

3 ウウウウウウウ。
ウウウ。
イイイイイイイ。
イイイ。

朝モ屋モ夜モ夜中モキノフモケフモ。
十文字八方咆エマハリ。
却ッテガラントシテシマウ
ソナ吹雪ノマツタダナカ。
海ト天トヲ遮断スル
大氷盤ヲシトネニシテ。
疲レタ熊ハ眠ツテヤル。
ウウウウウウウ。
ウウウ。
イイイイイイイ。
イイイ。

鯨ハ唸リニカキ消サレ。
ヨダレモ氷リ。
灰色ノ雪煙リノナカニ
更ニ僅カニボンヤリ白ク
四肢ヲ投ゲダシ眠ツテヤル。

4 凪いだ夜中の海面に。
億兆億の雪が沈む。

死への道連れであることに華やきながら。
それぞれ先を争ひながら。

死よりもしづかに。
雪雪は。
沈む。

Ⅱ. 窓

波はよせ。
波はかへし。
波は古びた石垣をなめ。
陽の照らないこの入江に。
波はよせ。
波はかへし。
下駄や藁屑や。
油のすぢ。
波は古びた石垣をなめ。
波はよせ。
波はかへし。
波はここから内海につづき。
外洋につづき。
はるかの遠い外洋から。
波はよせ。
波はかへし。
波は涯しらぬ外洋にもどり。
雪や。
霽天や。
億萬の年をつかれもなく。
波はよせ。
波はかへし。
波は古びた石垣をなめ。
憂や憎悪や悪徳の。
その鬱積の暗い入江に。
波はよせ。
波はかへし。
波は古びた石垣をなめ。
みつめる潮の干満や。
みつめる世界のきのふやけふ。
ああ。
波はよせ。
波はかへし。
波は古びた石垣をなめ。

Ⅲ. 風景

オプシディアン
黒耀石ノ微塵ノヤウニ。
キシム氷ノ黒イ。
海。
黙スハ岩礁。
時間ノ中ニ頭ヲ抱ヘ。
満満ミチル無数ノ零ノ。
黒ガラス。
天。

Ⅳ. 海

きのふに続いて海は古く。
ますます青く新しく。
億萬のきのふやけふを。
海は唸り。
海は怒りの歌をうたひ。

闊く大きな徹夜のうねりに。
天に駆けあがった世のかなしみは
微塵になってしづんでくる。
萬古の非常がそれを呑むのだ。

海づらの。
青と白とのゆらゆらや。
眠いやうなとほい龍巻。
大圓のなかの七色の縞。

さうしてすうんと深い底の底の。
海底の歯ぐきは暗く。
千尋の重みを支えてゐる。

Ⅴ. エリモ岬

炒卵黄をまきちらしたやうな。
エゾヒメタンポポの黄をふみながら。
親子連れの野放し馬が草を喰み。
向う遥かに木のないセビアのゆるい丘丘がつらなる。

(あんなあとにこんな風景が展開するとは)

ウルトラメールの深い海が。
荒くはじけ。しぶきをあげ。
泡だつ大波にゆらゆらゆれる昆布の黒帯。
巖に並ぶ鵜の鎌首。
ハクセキレイの稲妻の流れ。

(この茫漠が現はれようとは思へなかつた)

セビアの丘丘は重なり重なり海にのび。
そのはじつぽのエリモ灯台。
道南端の。
白チヨーク。

指揮 岡本 俊久



早稲田大学在学中より、同大学グリークラブの学生指揮者として定期演奏会やアメリカ演奏旅行などで活躍。指揮法を手塚幸紀、小林研一郎の両氏に師事。1974年「日本合唱協会」に入団し、合唱歌手として活動する傍ら、NHK東京放送合唱団を指揮するなど指揮者としての活躍の場もひろげ、多くの邦人合唱曲の初演も手掛ける。また、オーケストラとの共演も多く、バッハやモーツァルトなどを得意のレパートリーとしている。武蔵野合唱団常任指揮者、日本フィルハーモニー協会合唱団常任指揮者をを経て、1995年「東京オラトリエンコール」を結成。以来数年ごとに同団を率いて、バッハゆかりの地ライブツィヒの聖トーマス教会、聖ニコライ教会、聖ペーターズ協会などで演奏会を行い好評を得ている。2014年8月の7度目となるドイツ演奏旅行では、ライブツィヒの聖トーマス教会にて、バッハの「口短調ミサ」を、アイゼナハの聖ニコライ教会にて、バッハの「モテット」他の演奏を指揮し好評を得た。宗教改革500年にあたる2017年8月には、8回目のドイツ演奏旅行が予定されている。「NS-4クワトロ」メンバー他、各地の合唱団の指揮、指導にあたる。

「Messe Solennelle～荘厳ミサ～」より

作曲：A. デュオパ／指揮：小久保 大輔

楽曲解説

大学男声合唱界で広く知られた「デュオーパのミサ」。その楽譜のはじめのページには次のように書かれている。

オルフェオン運動から生まれた荘厳ミサ曲。
アラス大寺院のオルガニスト兼聖歌隊長でオルフェオン運動の指導者アルベール・デュオパによる。
ローマの最高法院に出向中のオーベルニュ公へ献呈。

ここに記されていることが、この作品について現在判明している情報のすべてである。

作曲者デュオパ自身についてはフランス国立図書館に所蔵されている作品が数点と女声合唱曲「Notre-Dame des Miracles」の出版が確認でき、その楽譜に生没年（1832-1896）が記されているが、国際ライブラリープロジェクト（International Music Score Library Project, IMSLP、12万曲所蔵）にはパブリックドメインとなっているはずの彼の作品は所蔵されていない。推測ではあるが、海外における演奏の情報が見当たらないことから、このデュオパ作曲「荘厳ミサ曲」は国際的には「忘れられた作曲家による忘れられた作品」であると考えよう。しかしながらわが国において「デュオーパのミサ」は一定の水準にある男声合唱団の重要なレパートリーとして長らく歌い継がれてきた。

この作品の日本における伝播は、関西学院グリークラブ出身の林雄一郎氏が戦前に楽譜を入手したことに端を発する。戦時中は秘蔵され、陽の目を見るのは終戦後の1948年第15回関学グリーリサイタルにおける「Kyrie」の演奏であった。翌年1949年には第16回関学グリーリサイタルにて林雄一郎氏の末弟林慶治郎氏指揮により全曲が初演され、関学グリーではその後もリサイタルや交歓演奏会で度々演奏されるレパートリーとなっていく。

同志社グリークラブでは、1957年の合唱コンクールにて河原林昭良氏の指揮により「Gloria」が演奏され、同年の一般の部にて日下部吉彦氏の指揮による「Kyrie」を演奏したクローバークラブと共に優勝、後の1964年には創立60周年記念演奏会において福永陽一郎氏指揮によって原調による日本初の完全演奏が行われた。

こうして「デュオーパのミサ」はコンクール、演奏会のいずれにおいても採り上げられる作品として、慶応ワグネル、早稲田グリーら四連組のみならず立教グリーや上智グリーなど多くの大学男声合唱団のレパートリーとなっていた。そして2001年、「輸入元」である関学グリーは関学100周年記念として北村協一氏指揮のもと全曲を2年がかりで演奏し、世界初の全曲録音のCD化を遂に達成した。

日本における「デュオーパのミサ」の受容。それは、スペインで忘れ去られた聖歌「O Gloriosa Domina」を「ぐるりよざ」として歌い継いだカクレキリシタンさながらの「演奏」の歴史である。日本において「デュオーパのミサ」への憧れを人々にもたらし、新たな演奏を生み続ける原動力となってきたのは、「作品」の力のみならず、先述のように積み重ねられたそれぞれの「演奏」の力（と物語）によるところが大きいように思われる。数多の演奏によって次第にゆるぎない名作となっていた「デュオーパのミサ」の在り方は、演奏行為が音楽の主体であること（あったこと）を宣言するひとつの碑文と言えるのではないだろうか。

著書「演奏の時代」において作曲の時代の終焉と演奏の時代の幕開けを看破した福永陽一郎氏は「いつか遂には、「演奏」も創造行為としての主体性を失い、人間にとって、音楽行為とは「聴く」ということだけにしか意味がなくなるのかもしれませんが。」と述べ、そんな時代を見るより前にこの世を去りたいと結んでいる。彼の去った後の時代を生きる私たちの歌う「デュオーパのミサ」が「忘れられた作品の忘れられない演奏」という創造行為となり得るか否か。先達の名演奏に敬意を表しつつ、楽譜の向こうのアルベールとも語りあいながら、諸先輩方の胸を借りて祈りを捧げたい。

小久保 大輔

指揮 小久保 大輔



東京音楽大学器楽科卒業。指揮を桐田正章、汐澤安彦の各氏に、トランペットを林昭世氏に師事。在学中よりアマチュアオーケストラの指導にあたり、2000年より東京文化会館オーケストラフェスティバルにおいて新日本交響楽団を指揮。2001年、横浜カンツォレ公演オペラ「毒か薬か物語」「俊寛」を指揮。同年、20世紀音楽の研究・演奏団体「ガレリア」を設立、2004年からはプロ吹奏楽団「ガレリアウインドオーケストラ」としても活動を展開させた。2009年より劇団四季において「ウェストサイド物語」「サウンド・オブ・ミュージック」「オペラ座の怪人」を指揮。2014年よりプロ声楽アンサンブル「レゾナンツ・カペレ」と共に合唱音楽の可能性も追求している。

現在、マルティナショナルプラスアンサンブル音楽監督・横浜ルミナスコー各常任指揮者、鎌ヶ谷フィルハーモニック管弦楽団・藤沢福音コール・東京農業大学全学応援団吹奏楽部各指揮者。

I. Kyrie / あわれみの賛歌

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

主よ、憐みたまえ。
キリストよ、憐みたまえ。
主よ、憐みたまえ。

II. Gloria / 大栄光の歌

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonæ voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te. Adoramus te.
Glorificamus te. Gratias agimus tibi propter
magnam gloriam tuam.
Domine Deus, Rex cælestis, Deus Pater
omnipotens. Domine Fili unigenite, Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus Sanctus. Tu solus Dominus.
Tu solus Aitissimus, Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris. Amen.

天のいと高きところには、神に栄光。
地には、善意の人に平和あれ。
われら主をほめ、主をたたえ、主をおがみ、
主をあがめ、主のたいなる栄光のゆえに
主に感謝したてまつる。
神なる主、天の王、全能の父なる主よ。
主なるおんひとり子、イエス キリスト。
神なる主、神の子羊、父のみ子よ。
世の罪を除きたもう主よ、われらを憐れみたまえ。
世の罪を除きたもう主よ、
われらの願いをききいれたまえ。
父の右に座しておられる主よ、われらを憐みたまえ。
主のみ聖、主のみ王。
主のみいと高し、イエス キリスト。
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。アーメン。

III. Sanctus / 感謝の賛歌

Sanctus, Sanctus, Sanctus Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt cæli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.
(Benedictus)
Benedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。
主の栄光は、天地にみつ。
天のいと高きところにはホザンナ。
(ベネディクトゥス)
ほむべきかな、主のみ名によりて来たる者。
天のいと高きところにはホザンナ。

IV. O Salutaris / 聖体賛歌

O Salutaris Hostia,
quæ cæli pandis ostium.
Bella premunt hostilia.
Da robur fer auxilium. Amen.

ああ、救霊のいけにえ、
天つ御国の門を開きたもう御者よ。
われらの敵は戦いを挑むがゆえに、
われらに力と助けとをあたえたまえ。アーメン。

V. Agnus Dei / 平和の賛歌

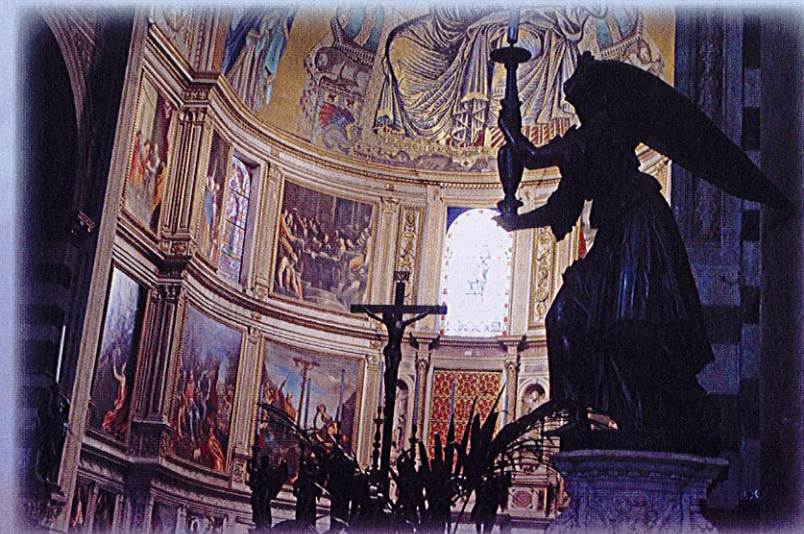
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi :
miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi :
dona nobis pacem.

神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらを憐みたまえ。
神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらに平安をあたえたまえ。

VI. Pie Jesu / 慈悲深い主イエスよ

Pie Jesu, Jesu Domine,
dona eis requiem.

慈悲深い主イエスよ、
彼らに安息をあたえたまえ。



慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団 男声合唱とピアノのための「ジプシーの歌」

作詩：A. ヘイドゥーク／作曲：A. ドヴォルジャーク／編曲：福永 陽一郎
指揮：佐藤 正浩／ピアノ：前田 勝則

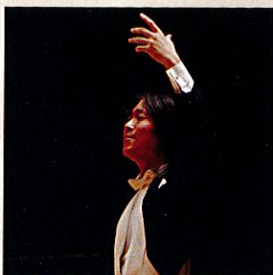
「ジプシーの歌」について

ジプシーの歌 op.55：歌曲集「ジプシーの歌」はアントニン・ドヴォルジャークが1880年、39歳のときに作曲しました。ドヴォルジャークはそれまでも多数の歌曲を書いていましたが、この歌曲集は後の歌曲創作における頂点となる作品と言えます。歌詞はボヘミアの抒情詩人アドルフ・ヘイドゥークの同名の詩集から7篇が選ばれており、チェコ語の原詩ではなく、ヘイドゥーク自身によるドイツ語訳に作曲されています。

ドヴォルジャークはスメタナとともにチェコ国民音楽を築いた人であり、また19世紀中頃、ヨーロッパに起こった民族主義運動の中でも重要な役割を果たしました。こうした彼の音楽の特徴として、民族音楽からの豊富な引用が挙げられます。ジプシーの音楽は漂泊民族の特徴である舞曲が多く、奔放で情熱に満ちています。ジプシーにとって音楽は流浪生活の唯一の慰めであり、感情の赴くままに歌い、踊ります。ドヴォルジャークはこうした民族色をピアノ伴奏によって巧みに表し、決して安住することのない過酷な運命を背負ったジプシーの、自然への賛美と自由への讃歌を力強く謳う音楽を作り上げました。自由こそ何物にも代えがたいとするこの精神がドヴォルジャークの心を惹きつけて止まなかったのでしょう。

男声合唱編曲版は、マーラーの「さすらう若人の歌」とともに福永陽一郎先生による歌曲の編曲物の最高峰に位置するものと言えます。（畑中良輔先生は「一、二、を争う名編曲」[ワグネル第111回（1986年）定演プログラム]と仰っています。）ワグネル現役では1979年の初演以降、度々レパートリーとして歌われてきました。今回OB合唱団で取り上げるのは2度目となりますが、人生を重ねてきたOBならではの演奏をどうぞお楽しみください。

指揮 佐藤 正浩



東京藝術大学声楽科卒業。ジュリアード音楽院ピアノ伴奏科修士課程修了。1992年、サンフランシスコ・オペラのオーディションに合格、専属ピアニストとして研鑽を積む。1995年、ケント・ナガノ氏の招きでリヨン国立歌劇場の首席コレペティートルに就任。ナガノ氏、ゲルギエフ氏、チョン・ミュンフン氏他のアシスタントとして、パリ・シャトレ座、ラヴェンナ音楽祭、ウィーン芸術週間などで活躍。同時に指揮者として活動を開始し1999年、イギリス・ダーティントン音楽祭で「イドメネオ」を指揮しデビュー。翌2000年に、新国立劇場で「オルフェオとエウリディーチェ」を指揮し日本デビューを果たし、一躍脚光を浴びる。その後も日生劇場「カルメン」、新国立劇場「トスカ」、藤原歌劇団「愛の妙薬」、東京オペラプロデュース「放蕩者のなりゆき」、いずみホール「ランスへの旅」等を指揮し注目を集める。2008年から和光市にて「ヴェルディ・プロジェクト」を開始し、第一作目の「ナブッコ」で三菱UFJ信託音楽賞を受賞、各方面から絶賛される。2012年、白虎隊をテーマにしたオペラ「白虎」（宮本益光／加藤昌則）を会津若松で初演し佐川吉男音楽賞を受賞した。「ドン・カルロス」（仏語版日本初演）、「サムソンとデリラ」、「カルメン」等フランスオペラの指揮に対する評価は高い。愛知県立芸術大学講師、昭和音楽大学大学院講師、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団正指揮者。

演奏にあたって

ジプシーと言うとまず思い起こすのは、『カルメン』ではなかろうか。強い信念を持ちながらも、運命に突き動かされるように、恋に、歌に、そして踊りに生き、また家族や友情を想い、人生を猛スピードで駆け抜けていく。しかし彼女にとって最も大切だったのは「自由」だ。全てのジプシー（最近では「ジプシー」という言葉が差別用語に当たるとかで、NHKなどでは「ロマ」を使う）にとって「自由」とは生まれながらの特権である。だからこそ、彼らは住むべきところを定めずに、放浪を続けた。その近くにある「死」をも顧みずに……。そんな彼らの独特な文化に魅力を見出し、ヨーロッパでは数々の「ジプシー風」が生み出された。その中でもこのドヴォルジャークの「ジプシーの歌」は、最も情熱的であろう。自由奔放に響くジプシーの魂を、そして彼らの粋な生き様を、歌い上げたい。 佐藤 正浩

ピアニスト 前田 勝則



山口県に生まれる。1998年東京学芸大学教育学部芸術課程音楽専攻卒業。2001年東京芸術大学大学院音楽研究科修了、修了時にNTTドコモ奨学金を授与される。ピティナ・ピアノコンペティションデュオ部門特級最優秀賞受賞をはじめとして、多摩フレッシュ音楽コンクール、日本室内楽コンクール、吹田音楽コンクール、大曲新人音楽祭コンクール、かずさアカデミア音楽コンクールなどに上位入賞。また、NHK-FM「土曜リサイタル」、東京文化会館新進音楽家デビューコンサート、ABCフレッシュ・コンサート、日演連推薦／新人演奏会など、多くの演奏会に出演。大阪フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と協演。現在、ソロ、室内楽、及び声楽・合唱のピアニストとして活発な演奏活動を繰り広げている。

I. Mein Lied ertönt おれの歌がひびく

おれの歌がひびく、愛の賛歌が――
日が暮れそめ、そして苔が、しおれた茎が
露の玉をひっそりと飲む時。

おれの歌がひびく、
さすらいの歓びに満ちて、
緑の森のホールで、
ブスタ（ハンガリーの草原）の大平原で、
おれは歓びの歌声をひびかせる。

おれの歌がひびく、愛にも溢れて、
荒野に嵐が荒れ狂う時に、
生の最後の呼吸のために
兄弟の胸がふくらむ時に。

II. Ei, wie mein Triangel どうだい、おれのトライアングルは、

どうだい、おれのトライアングルは、
なんとみごとに鳴ることだろう！
こんなひびきを聴けば、
人は楽に死んでゆけるさ！

トライアングルのひびきが道連れなら、
人は死んでゆけるさ！
歌よ、輪舞よ、愛よ、
みんなおさらばだ！

III. Rings ist der Wald あたりの森はひっそりと静まり

あたりの森はひっそりと静まりかえり、
おれの心は不安に高鳴っている。
黒い霧が絶え間なく舞い降り
おれの頬（の涙）を乾かす。

なあに、おれの涙は乾きはしないぞ。
（だから霧よ、お前は）誰か他の頬を
探さなくちゃな！
悩みを歌にすることのできる者なら
死を呪ったりはしないだろうよ。

IV. Als die alte Mutter 年老いたお袋が歌を教えてくれていた時、

年老いたお袋が未だおれに
歌を教えてくれていた時、
しょっちゅう、まつ毛に
涙をためていた。

今おれが自分で子供たちに
歌の稽古をつけていると、
しょっちゅう涙が
日やけした頬をつたって
ひげの中にしたり落ちるんだ！

V. Reingestimmt die Saiten 弦の調子をぴちっと合わせろ

弦の調子をぴちっと合わせろ、
若者よ、輪になって踊れ！
今日は陽気に、
そして明日はどうかって？
昔流に暗くさ！

ほどなくナイルのほとりで
ご先祖さまのお仲間入りだ。
弦の調子をぴちっと合わせろ
踊りに混ざれ！

弦の調子をぴちっと合わせろ、
若者よ、輪になって踊れ！

VI. In dem weiten, breiten, luft'gen Leinenkleide ゆったりと巾の広い軽い服を着ている方が、

ゆったりと巾の広い、軽いリンネルの
服を着ている方が、
金や絹を身にまとうよりも
ジプシーたちは一層自由だ！

そうとも、金の紐つきのドルマンジャケット
（軽騎兵の皮付きジャケット）などは
やけに窮屈に胸をしめつけ、
放浪を飲む気ままな歌の響きを
邪魔してしまう。

それで、歌のひびきに
歓びを感じる者は、
金などくだらないものなど
地獄へ投げ落としてしまうのだ！

VII. Darf des Falken Schwinge 鷹の翼はタトラ山の頂の周りで

鷹の翼はタトラ山の頂の周りで
羽音を立てる自由があるのに
鷹は岩山の巣を鳥籠と
取り替えたりするだろうか？

野生の若駒は荒野を自由に
駆けめぐるができるのに
面がいや手綱を
悦ぶだろうか？

ジプシーよ、自然がお前に
与えてくれたものが何かあるのかい？
あるとも！自然はおれの生涯が
自由であるように創ってくれたのさ！

Opening 5th Stage

合同演奏



オープニング

第5ステージ

合同ステージについて

今回の演奏会のステージ構成については、「OB四連はひとつ」というコンセプトの下、第1回OB四連の時のステージ構成に戻してみようという事になりました。オープニングは、これまでのエールの交換ではなく、合同による演奏。また、オープニングを含め、合同ステージの選曲については、男声合唱界では誰もがお世話になったグリークラブアルバム（通称：赤本）が本年改めて編集された事から、その新しいグリークラブアルバムから選曲を行い、更に指揮者については、幹事校（ワグネル）と次回幹事校（クローバークラブ）から出すことにいたしました。

曲目解説

オープニング

Gaudeamus（ガウデアムス） 指揮：須田 和宏（慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団）

ヨーロッパに伝わる伝統的な学生歌。日本では「ドイツ学生歌」として紹介されたため、よくドイツに限定された歌と間違われるが、ヨーロッパ全土で親しまれている歌である。

1. 諸君、多に楽しもうではないか。
私たちが若いうちに。
素晴らしい青春が過ぎた後、
苦難に満ちた老後の過ぎた後、
私たちはこの大地に帰するのだから！
2. 私たちの大学、いつまでも
私たちの先生たち、いつまでも
私たち学生、いつまでも
すべての、どんな人たちも、
つねに栄えあれ！

第5ステージ

希望の島 指揮：竹内 正（クローバークラブ）

この曲は、1894年頃、D. B. Townerが、Mark. M. Jonesの原曲を男声四部合唱に編曲した。原曲は、アメリカのキリスト教福音派の賛美歌の“That Beautiful Land”である。日本語の作詞者である小松玉巖（1884～1966）は、秋田県生れで山田耕筰とほぼ同じ時代に活躍した。彼は、全日本合唱連盟の設立に参加し、初代と3代目の理事長を務め、日本の合唱コンクールの基礎を築いた。1909年9月、日本語の歌詞を付けた“希望の島”の楽譜を出版した。1917年同志社大学グリークラブが、初めて“希望の島”を演奏。ただ、太平洋戦争中は、原曲がアメリカの讃美歌であることを隠すため作者不詳の曲として歌われた。

斎太郎節 指揮：須田 和宏（慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団）

「さいたら節」は金華山から松島湾沿岸一円で鯉漁の大漁祝い唄として歌われてきた。その源流は陸前高田市気仙町周辺の木遣り唄といわれる。そして『サイドヤラ』とか『サイタラ節』とよばれていたものに『斎太郎節』の文字をあてた。この『斎太郎節』は1925年（大正14年）宮城県桃生郡東名（東松島市）の斎藤清次郎によって、のど自慢の会で紹介され、それを聞いた後藤桃水が弟子の八木寿水に節回しを整理させ、自ら歌詞を補作、今日の形に整えて発表、以来海の代表曲として広まった。ソロの歌詞に出てくる「日和山」は石巻を一望する丘で、大震災の津波から多くの人を救った場所である。

「OB四連」事始め

今回幹事校 慶應ワグネルOB合唱団
団長 吉川 信男



2015年8月第20回OB四連レセプションのご挨拶で、今川安雄新月会会長（当時）は、OB四連のペナントに表わされた「OB四連はひとつ」の精神について話をされました。

去ること四十有余年、1976年（昭和51年）秋に開催されたOB四連発足マネ会に於いて、四校の代表（慶：津下本健一郎・玉木修、早：北村勝昭、同：松本寛二、小田泰弘、橘守、関：今川安雄・杉本正和）により、OB四連の在り方についての論議が熱心に交わされた結果、現役四連のコピーでは意味がないとして、「競うのではなく楽しみあい聴きあう演奏会」というOB四連のコンセプトが確認されました。そして、「OB四連はひとつ」を表すものとして、早慶同関四校の徽章が入るOB四連ペナント（デザイン今川安雄氏）を作成することや、OB四連設立を呼びかけた慶應が第1回幹事校を務めること等が決まりました。

これに沿って第1回OB四連（筆者もマネージャーの一員）では無用の競い合いを避ける趣旨で冒頭のエール交歓は行わず、合同演奏後に和やかな雰囲気の中でステージストームとしてカレッジソングが演奏され、「OB四連はひとつ」の精神からステージで各団のペナント4枚を掲示せず、OB四連ペナントのみが掲揚されました。また、ステージ順について幹事校が最終ステージということもなく、各団の演奏曲目から全体のステージ構成を判断していました。

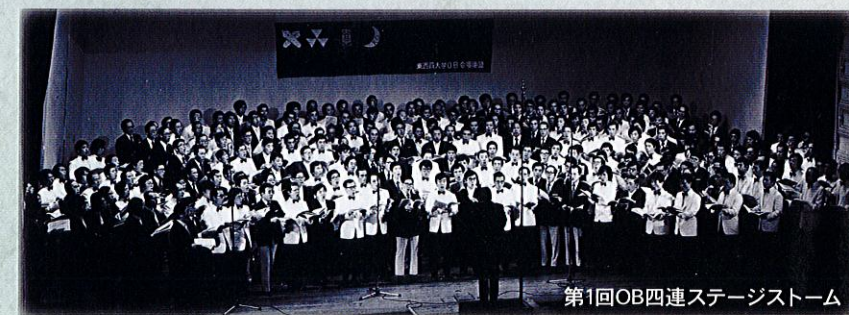
OB四連が一巡した第4回OB四連レセプション会場で、今川さんが私に「本当に2周目に入るの？」と声を掛けられました。その時「もちろんです」と即座



にお答えしたのですが、一昨年第20回のスピーチを聞いた時、32年前のこの問いかけを思い起こしました。今川さんが2周目に入るに当って、「OB四連コンセプト」の実現を第5回幹事校の慶應に「頼むぞ」とおっしゃったものと受け止め、第5回では、四校全員で歌えるOB四連愛唱歌を創る趣旨から、合同ステージで愛唱歌を採り上げました。

今回の演奏会では、設立コンセプトに立ち返り、互いにステージリハーサルを聴き合い、全員合唱として四校の愛唱歌から、冒頭「ガウデアムス」と合同ステージでは「希望の島」「斎太郎節」を歌います。これまで積み重ねてきたOB四連愛唱歌の精華をご披露いたしますと共に、ステージストームは各校の十八番を演奏することとし、ご来場の皆様に各校の歴史と伝統をお楽しみいただければと願っております。尚、将来の大学グリーメン増加に思いを致し、OB四連として「在京・近郊の」高校グリークラブの皆様をご招待させて頂きました。今回を契機に、四校の信頼と友情を基盤に、OB四連の可能性と「OB四連はひとつ」がこれからも希求され、実現することを期待しております。

第20回OB四連レセプションにて、今川新月会会長よりペナントを引き継ぐ筆者。



第1回OB四連ステージストーム

CLASSIC

Glee Club Album

グリークラブアルバム CLASSIC

広瀬康夫・伊東恵司・山脇卓也 共編

男声合唱のバイブル「グリークラブアルバム」がリニューアル。

現代男声合唱界をリードする三人の指揮者による共編。

CLASSICは、これまでの「グリークラブアルバム」からのベスト・チョイス版。

NEXTは、「30年後にも3世代で歌える」をテーマに、古典から未出版の秘蔵曲までを集めている。

カワイ出版

A4判／88頁／定価（本体2,000円＋税）

〔曲目〕 Gaudeamus／いざ起て戦え
希望の島／U Boi／斎太郎節／他全33曲

Glee Club Album

グリークラブ アルバム

広瀬康夫・伊東恵司・山脇卓也 共編

現代男声合唱界をリードする三人の指揮者による共編。

CLASSICは、これまでの「グリークラブアルバム」からのベスト・チョイス版。

NEXTは、「30年後にも3世代で歌える」をテーマに、古典から未出版の秘蔵曲までを集めている。

カワイ出版

A4判／80頁／定価（本体2,000円＋税）

〔曲目〕 酒旗／こころうたえ／鶴
ここから始まる／秋のビエロ／他全19曲

NEXT

Glee Club Album

グリークラブアルバム NEXT

広瀬康夫・伊東恵司・山脇卓也 共編

現代男声合唱界をリードする三人の指揮者による共編。

CLASSICは、これまでの「グリークラブアルバム」からのベスト・チョイス版。

NEXTは、「30年後にも3世代で歌える」をテーマに、古典から未出版の秘蔵曲までを集めている。

カワイ出版

A4判／80頁／定価（本体2,000円＋税）

〔曲目〕 酒旗／こころうたえ／鶴
ここから始まる／秋のビエロ／他全19曲

〒161-0034 東京都新宿区上落合2-13-3 TEL.03-3227-6286 FAX.03-3227-6296
http://www.editionkawai.jp/

第1回 1977年 / 昭和52年
7月3日 / 九段会館ホール

- ①【同】ミサ曲・ト長調(シューベルト)
- ②【関】草野心平の詩から/からたちの花
- ③【慶】蛙の歌(南弘明)
- ④【早】Negro Spirituals

●合同
月光とピエロ
指揮：北村 協一



第2回 1979年 / 昭和54年
7月15日 / 京都会館第一ホール

- ①【関】荘厳ミサ曲(A.デュオーバ)
- ②【早】土の歌(佐藤真)
- ③【同】蛙(多田武彦)
- ④【慶】アメリカ民謡集

●合同
水のいのち
指揮：日下部 吉彦 / ピアノ：伊吹 元子



第3回 1981年 / 昭和56年
8月2日 / 東京厚生年金会館

- ①【慶】シューベルト男声合唱曲集
- ②【関】中勘助の詩から
- ③【同】Sea Chanty より
- ④【早】Negro Spirituals

●合同
枯れ木と太陽の歌
指揮：山本 健二 / ピアノ：金井 紀子



第4回 1983年 / 昭和58年
7月3日 / ザ・シンフォニーホール

- ①【慶】シベリウス男声合唱曲集
- ②【同】多田武彦名曲集
- ③【早】岬の墓 / ふるさと(磯部俊)
- ④【関】歌劇タンホイザー より

●合同
MESSE SOLENNELLE より
指揮：林 雄一郎



第5回 1985年 / 昭和60年
7月7日 / 東京厚生年金会館

- ①【関】Messe in G-Dur(シューベルト)
- ②【同】南太平洋
- ③【早】海の構図(中田喜直)
- ④【慶】NEW MOON

●合同
Ständchen/詩篇98/ふるさと/U boj
指揮：各合唱団指揮者



第6回 1987年 / 昭和62年
7月12日 / ザ・シンフォニーホール

- ①【早】月下の一群
- ②【関】第九より第4楽章「An die Freude」
- ③【慶】ジプシーの歌(ブラームス)
- ④【同】Seven Beatles Numbers

●合同
Shenandoah/夕やけの歌/Listen to the Lambs/ He's Got The World in His Hand
指揮：福永 陽一郎



第7回 1989年 / 平成元年
7月23日 / 東京文化会館大ホール

- ①【関】The Students Prince
- ②【慶】シューベルト男声合唱曲集
- ③【早】Westside Story
- ④【同】月夜孟宗の図(多田武彦)

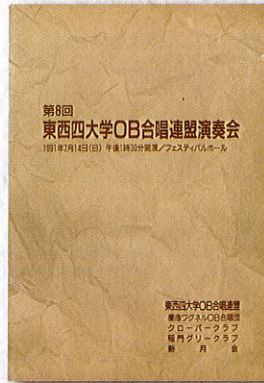
●合同
斎太郎節/八戸小唄
音戸の舟唄/最上川舟唄
指揮：各合唱団指揮者



第8回 1991年 / 平成3年
7月14日 / フェスティバルホール

- ①【慶】草野心平の詩から
- ②【同】ラ・マンチャの男
- ③【早】革命詩人による十の詩曲より(シオスタコヴィッチ)
- ④【関】MESSE SOLENNELLE

●合同
月光とピエロ
指揮：北村 協一



第9回 1993年 / 平成5年
7月18日 / 東京厚生年金会館

- ①【同】雪と花火/東京景物詩 より
- ②【早】合唱のためのコンポジションⅢ
- ③【関】沙羅
- ④【慶】水のいのち

●合同
君といつまでも/僕は特急の機関士で
昂/熱き心に
指揮：各合唱団指揮者 / ピアノ：鬼頭 久美子



第10回 1995年 / 平成7年
7月16日 / ザ・シンフォニーホール

- ①【早】枯れ木と太陽の歌
- ②【関】PORGY and BESS
- ③【慶】月下の一群
- ④【同】イン・コンサート：回転木馬

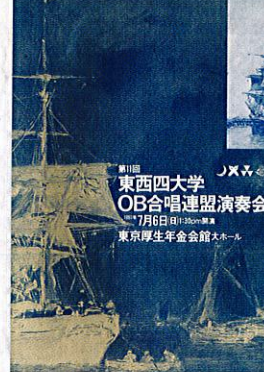
●合同
花火・雪夜・さくら散る・エリモ岬
作曲：指揮：多田 武彦



第11回 1997年 / 平成9年
7月6日 / 東京厚生年金会館

- ①【関】アイヌのウポポ
- ②【慶】蛙の歌(堀悦子)
- ③【同】ミサ曲へ長調作品190(ラインベルガー)
- ④【早】北斗の海

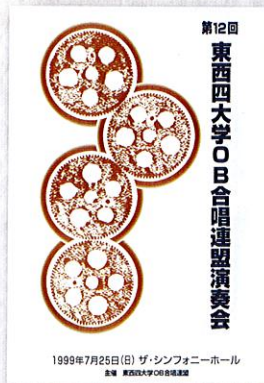
●合同
巡礼の合唱/水夫の合唱
指揮：岡本 俊久 / ピアノ：高橋 裕子



第12回 1999年 / 平成11年
7月25日 / ザ・シンフォニーホール

- ①【慶】Liebeslieder (愛の歌)
- ②【同】島よ
- ③【早】合唱による風土記〜阿波
- ④【関】Afro-American Songs

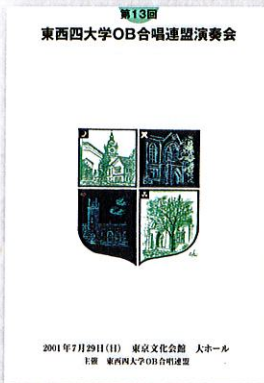
●合同
月光とピエロ
指揮：北村 協一



第13回 2001年 / 平成13年
7月29日 / 東京文化会館大ホール

- ①【同】Richard Strauss 歌曲集 より
- ②【早】前田憲男 vs ワセグリOB
- ③【関】富士山
- ④【慶】歌劇タンホイザー より

●合同
水のいのち
指揮：北村 協一 / ピアノ：久邇 之宜



第14回 2003年 / 平成15年
7月21日 / フェスティバルホール

- ①【早】戦旅(高田三郎)
- ②【関】ELVIS PRESLEY, Still Alive in Male Voices
- ③【慶】ジプシーの歌(ブラームス)
- ④【同】岬の墓

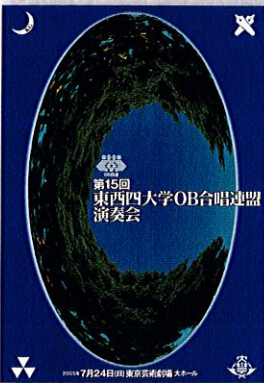
●合同
富士山
指揮：浅井 敬壹



第15回 2005年 / 平成17年
7月24日 / 東京芸術劇場大ホール

- ①【関】バーバースヨップハーモニーの世界
- ②【慶】沙羅
- ③【同】御誦
- ④【早】水のいのち

●合同
Sound Celebration/斎太郎節
君といつまでも/Ave Maria/ふるさと
指揮：各合唱団指揮者



第16回 2007年 / 平成19年
7月29日 / 神戸国際会館こくさいホール

- ①【同】REQUIEM(G.Fauré)
- ②【早】アイヌのウポポ
- ③【関】The Student Prince
- ④【慶】富士山

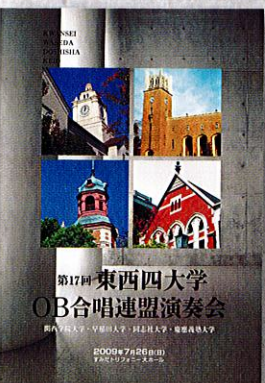
●合同
黒人霊歌
指揮：広瀬 康夫



第17回 2009年 / 平成21年
7月26日 / すみだトリフォニーホール

- ①【関】雪明りの路
- ②【早】岬の墓
- ③【同】Afro-American Spirituals
- ④【慶】過ぎし日(多田武彦)

●合同
枯れ木と太陽の歌
指揮：佐藤 正浩 / ピアノ：前田 勝則



第18回 2011年 / 平成23年
8月7日 / ザ・シンフォニーホール

- ①【早】四つの仕事唄
- ②【関】黒人霊歌
- ③【慶】尾崎喜八の詩から
- ④【同】水のいのち

●合同
岬の墓
指揮：当間 修一 / ピアノ：木下 亜子



第19回 2013年 / 平成25年
6月23日 / 東京芸術劇場コンサートホール

- ①【同】おらしよ(千原英喜)
- ②【慶】チャイコフスキー歌曲集
- ③【関】Old American Songs(Copland)
- ④【早】水のいのち

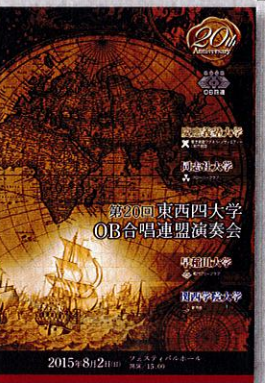
●合同
斎太郎節 / ソーラン節
五木の子守唄 / 最上川舟唄
指揮：各合唱団指揮者



第20回 2015年 / 平成27年
8月2日 / フェスティバルホール

- ①【慶】Liebeslieder (愛の歌)
- ②【同】くちびるに歌を
- ③【早】Song Of Departure より
- ④【関】中勘助の詩から

●合同
“Sea Shanties”海の男の歌
指揮：広瀬 康夫





新月会 (関西学院)

今から83年前の1934年(昭和9年)、関西学院グリークラブのOB数名が現役を支えることを目的として神戸で会合を持ち、関西学院グリークラブのOB会としての新月会が発足しました。新月会の名前は、関西学院の校章である三日月に由来し、月が新月から満月へと成長するように、我々も日々進歩・成長し続けたいとの願いが込められたものです。その後、11名のメンバーにより合唱団としての歩みを始めるにあたり、林雄一郎を指揮者に選び、練習を開始しました。今日、会員数は約1,600名(含物故者)を数え、その中からは、山田耕柝、津川主一、林雄一郎、北村協一などの優れた音楽家を輩出しているほか、多くの会員が、各方面の合唱団に於いて、指揮者として、音楽文化の普及と向上にたゆまぬ努力を続けています。また、関西学院グリークラブの支援にも力を注ぎ、技術・運営両面で、強力なバックアップ体制を築いています。

神戸で生まれた新月会ですが、仕事の関係などで首都圏在住となる者も増え、現在では東京にも支部を置いて、大阪と東京の2カ所で練習を続けています。最近では、ほぼ2年に1度、東京で新月会リサイタルを開催できるまでになり、首都圏在住のメンバーのみならず、大阪からのメンバーも合流して、ALL新月会による関学トーンを東京のお客様にお聴きいただく機会を持てるようになりました。

本日、ステージに参加するメンバーは、日頃、大阪と東京で練習しているメンバーに、愛知・静岡・福岡などからの参加者も加わって構成されています。年齢層も昭和32年卒から平成28年卒まで、幅広い年代に渡っています。これらのメンバーが一堂に会して声を合わせるとき、新月会の長年にわたる歴史と伝統を感じずにはいられません。メンタルハーモニーというモットーに代表される伝統の歌声をお楽しみいただければ幸いです。

Top Tenor

圓井謙三郎(S32) 西村 紀彦(S57) 辰 信太郎(H 1)
厚地 秀昭(S40) 坂口 和彦(S58) 長尾 雅典(H 1)
勝部 正嘉(S41) 若井 敬(S59) 渡邊 孝志(H 2)
森田 正純(S41) 吉田 進一(S60) 三木 亮介(H13)
北井 一夫(S42) 重松 浩(S61) 村田 牧人(H16)
漆崎 公義(S43) 安井 照幸(S61) 中島 大典(H25)
井上 哲治(S55) 高瀬 実(S62)
中田 稔(S55) 重松 孝(S63)

Baritone

杉本 正和(S36) 秋國 仁孝(S51) 牛尾 竜二(S62)
赤松 正昭(S41) 渡邊 博之(S51) 阿部 靖(S63)
西川 康夫(S42) 広瀬 康夫(S55) 田中 琢馬(S63)
隈下 正臣(S43) 棕田 哲男(S59) 三島 和美(S63)
数原 健(S43) 恵谷 篤嗣(S60) 辻 伸高(H11)
山本日出男(S45) 八木 徹(S60) 河本 拓貴(H13)
藤本 文男(S47) 田井中豊喜(S61) 野口 尚樹(H27)

Second Tenor

菅沼 範治(S36) 吉本 耕治(S50) 村田 浩之(S59)
小野 和彦(S41) 中島 晋(S55) 富田 久康(S63)
酒井 邦彦(S42) 木田 雅夫(S57) 平田誠一郎(H10)
谷口 詔彦(S42) 廣瀬 康(S57) 手島 理志(H28)
津田 克邦(S42) 竹見 孝弘(S59)
金井 吉光(S49) 橋本 尚樹(S59)

Bass

福島 一晃(S35) 山口 文雄(S53) 吉谷 浩一(S63)
山崎 修三(S36) 多田 雄一(S54) 矢橋 洋(H11)
室谷 龍(S37) 谷川 晴之(S54) 尾崎 康知(H12)
三谷 章夫(S40) 中井 三夫(S54) 高木 俊一(H18)
吉田 忠章(S40) 蔵岡 隆(S55) 岡田 栄樹(H23)
木村 昭(S41) 石田 一郎(S58) 中村 翔(H25)
村上 勝(S42) 寺田 裕之(S58) 本間 裕大(H28)
尾崎 和義(S43) 山田 真也(S58) 横山 大二(H28)
由本 欽路(S43) 石崎 隆造(S59)
福田 晴彦(S44) 前田 昌男(S59)



稲門グリークラブ (早稲田)

早稲田大学グリークラブOB会は今年創立65周年、OB総数は現在約1,500名です。現役グリーへの支援、OB相互の親睦を図りつつ、日々合唱活動を行っています。いわゆるワセグリのOBではあるけれども、合唱団員としては気力・体力の続くかぎりにはバリバリの現役、というわけです。

東京稲門グリークラブ、大阪稲門グリークラブ、横浜稲門グリークラブ、稲門グリークラブ・シニア会、早稲田大学グリークラブOBメンバーズ、倶楽部グリーなど、普段は各関連団体単位で、単独の演奏会や合唱祭、コンクール、演奏旅行、特別ステージ(各種の訪問演奏等)、CD制作…といった諸活動に取り組んでいます。これらを掛け持ちしているメンバーも珍しくありません。ただし、この東西四大学や東京六大学のOB合唱連盟の演奏会の際には「稲門グリークラブ」を名乗り、前出の各合唱団のメンバーはもとより、OB会全体から参加者を募って取り組むというスタイルがここ数十年定着しています。

今回のOB四連では、早稲田大学グリークラブが多田武彦先生に委嘱し初演した男声合唱組曲「北斗の海」を、現役時代にもこの曲を指揮した岡本俊久の指揮で歌います。初演以降、現役・OBグリークラブで幾たびか再演されてきたゆかりの組曲ですが、「壮大」な海の歌は「早大」のOB、稲門グリークラブにこそ似つかわしい、と言われるような演奏をめざして今日まで練習を重ねてきました。果たしてどうなりますか、乞うご期待。

Top Tenor

長沢 護(S36) 小林 祥郎(S46) 武内 正(S51)
西川 謙三(S37) 鈴木 孝(S46) 木村 寛之(S53)
清水 實(S38) 日和佐省一(S46) 渡部 正(S53)
貝塚文一郎(S39) 平林 義典(S47) 山田 民郎(S54)
頼原信二郎(S42) 阿知波茂樹(S48) 清水 稔夫(S55)
関 孟重(S44) 坂井 直樹(S48) 石川 了(S61)
村上 實(S44) 本多 行昭(S49) 加藤 翼(H24)
斉藤 利美(S45) 市橋 信男(S50)

Baritone

徳田 浩(S31) 星 賢太郎(S47) 佐久間宰士(S63)
石山 忠弘(S35) 林 幹夫(S48) 津久井竜一(H 1)
児玉 昌久(S37) 佐久間裕一(S49) 松井 修平(H 2)
阪口 達也(S39) 多奈部純一(S49) 村上 政道(H 3)
今澤 哲朗(S45) 小岩 寿樹(S52) 濱野 将廉(H14)
山本 雄二(S45) 近藤 芳明(S52) 東松 寛之(H24)
熊谷 恒人(S47) 山本 広士(S55) 好士崎雄飛(H29)
藤澤 行雄(S47) 小林 幹郎(S60)

Second Tenor

館野 美久(S36) 伊東 哲也(S50) 東原 浩二(S61)
白井 猛(S38) 江澤 孝政(S51) 近田 修一(H 6)
越田信市郎(S39) 松沢 敏文(S51) 佐藤 拓(H15)
大浦 亮一(S44) 横田 均(S55) 古家 大貴(H26)
大山 重雄(S45) 井上 靖夫(S56) 奥村 恒(H29)
千葉 繁男(S47) 武熊 聡(S58)
横 信人(S48) 塚田 隆(S58)

Bass

辻田 行男(S37) 溝田 俊二(S48) 永野 宏行(S55)
西川新八郎(S38) 森山 耕一(S48) 福島 敬(S55)
清水 卓爾(S40) 北尾 直樹(S49) 山崎 哲(S56)
田摩 勇(S42) 小黒 康夫(S49) 笹原 優樹(S59)
和田 清(S42) 高田 勝郎(S49) 道浦 俊彦(S59)
江連 孝雄(S48) 安野 秀明(S50) 三浦 信(H 6)
川島 基成(S48) 阿部 健二(S54) 内村 駿介(H24)
佐藤 公俊(S48) 板東 功(S54)



クローバークラブ (同志社)

同志社グリークラブが、創立113年を迎える今年、クローバークラブも創部63年を迎えます。1954年(昭和29年)開催の同志社グリークラブ創部50周年記念演奏会に、グリークラブOBが大勢賛助出演したことをきっかけに、OB合唱団が発足、『クローバークラブ』と命名されました。

普段は、東京クローバークラブ、大阪クローバークラブ、東海クローバークラブ、同志社グリークラブOBシンガーズ(通称: DOBS)として、別々の活動を行っておりますが、当演奏会開催の際には、その他地区(海外からも参戦)メンバーも含め一堂に会して、『クローバークラブ』として、オンステすることになります。様々な地域・世代に関係なく、ただ、同志社グリークラブの歌・音楽が好きなOBが集まって歌います。今回も、第1回OB四連参加メンバーが数名オンステします。昨年卒のOBもオンステします。年齢差は『クローバークラブ』歴史年数と同じです。

今日歌う楽曲は、同志社グリークラブにとって所縁深い『デュオパの荘厳ミサ』。同志社グリークラブの昭和30年代から平成初に音楽的にもっとも影響を受けた故福永陽一郎先生のお孫様にあたる小久保大輔先生に指揮いただきます。果たして、会場にどんな祈りの音楽が響き渡るのでしょうか。乞うご期待!

Top Tenor

福島 義二 (S33)	東 英達 (S45)	石井 元博 (S63)
南迫 卓一 (S33)	伏村 淳二 (S51)	八幡 諭 (S63)
河野賢太郎 (S36)	小林 茂 (S52)	廣島 映一 (H 2)
影田 武道 (S41)	徳山 康彦 (S53)	川口 晃司 (H 3)
北村 徹男 (S41)	鈴木 恒一 (S56)	林 克一 (H 5)
小室 泰司 (S41)	宮島 寿 (S57)	奥貴 壮史 (H15)
池田 研一 (S42)	豊田 尚紀 (S59)	川出正太郎 (H25)
鹿野 勝 (S42)	西山 勲 (S59)	白石 和之 (H25)
澤井 浩一 (S42)	三宅 厚志 (S62)	

Baritone

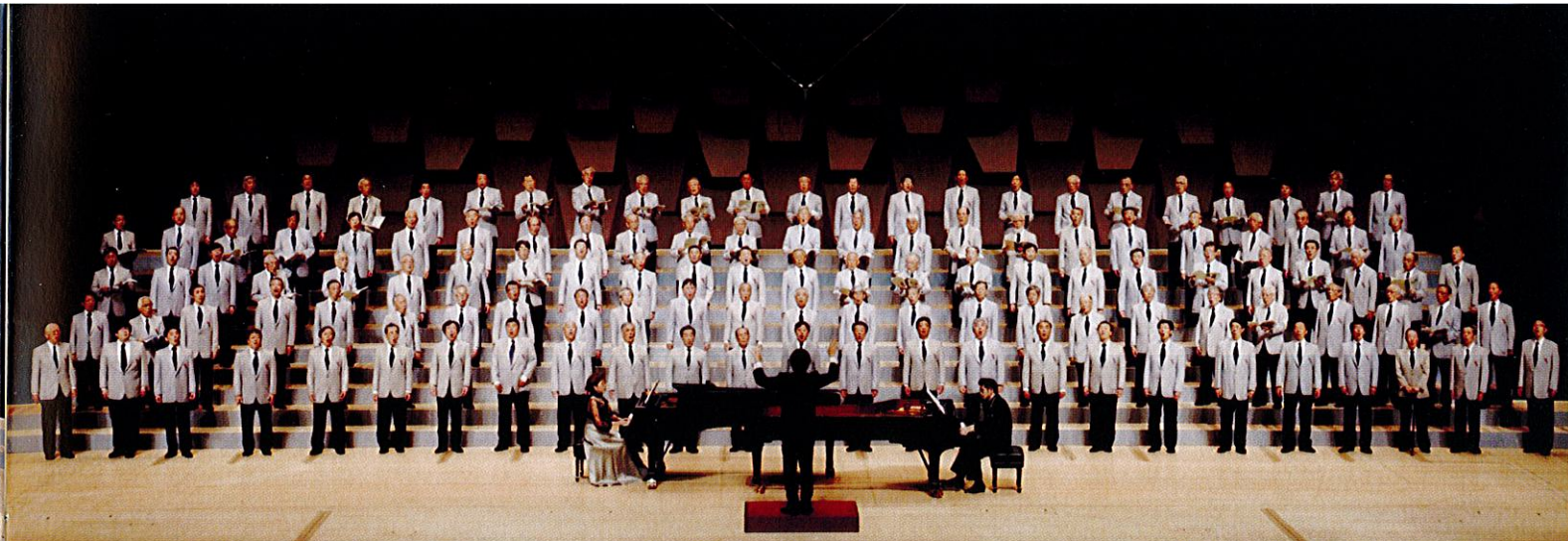
門田 耕一 (S30)	吉田 正彦 (S41)	北尾 俊明 (S57)
大友 慶介 (S34)	白井 孝 (S42)	奥野 和敏 (S62)
川添 正 (S36)	館 和道 (S42)	山口 明彦 (S62)
下津 啓誠 (S36)	西村 肇 (S42)	梅田 隆司 (S63)
村田 由高 (S36)	魚谷 庄司 (S43)	吉岡 康彦 (S63)
森本 潔 (S36)	遠藤 好俊 (S43)	竹内 正 (H 3)
山田 英二 (S36)	川上 貴裕 (S43)	竹内 圭介 (H15)
横田 義 (S36)	前田 憲一 (S47)	鈴木 崇大 (H27)
阿部 光夫 (S37)	山下 裕司 (S52)	西垣 友裕 (H28)
幸田 長明 (S38)	福澤 敬 (S54)	
村西 耕爾 (S41)	梶浦 義人 (S55)	

Second Tenor

新矢 起大 (S34)	岩谷 誠之 (S42)	高梨 純 (S62)
加藤 英夫 (S35)	荒井 直 (S43)	奥村 圭司 (S63)
塩路 良一 (S35)	橋本 晴海 (S49)	正己 (H 1)
松村 紘一 (S38)	大崎 保則 (S50)	田中 祐之 (H 1)
岩木 六馬 (S39)	森島 敏夫 (S53)	板木 義博 (H 1)
牧野 章造 (S39)	奥田 茂弘 (S56)	小林 啓 (H 5)
畑 恵郎 (S40)	池田 英生 (S58)	周藤 真 (H 5)
明神 宣生 (S40)	上田 慎一 (S58)	平谷 有祐 (H 8)
小亀 豊 (S41)	諸江 修 (S59)	
石黒 武 (S42)	辻 透 (S60)	

Bass

木村 誠一 (S29)	神谷 洋司 (S43)	山田 辰也 (S55)
黒坂 洋平 (S29)	柳原 高志 (S43)	芦田 直幸 (S57)
野村 秀治 (S29)	坂東 憲治 (S44)	隆文 (S57)
寒河江 正 (S32)	吉本 孝夫 (S44)	琢磨 (S59)
脇地 駿 (S34)	吉川 誠 (S44)	片岡 和彦 (S60)
松村 時男 (S35)	影田 知道 (S46)	加藤 栄嗣 (S61)
竹田 守孝 (S36)	中村 徹夫 (S49)	山本 徹也 (H 2)
盛田 忍正 (S36)	山内 規生 (S51)	佐野 泰弘 (H 6)
田中 惺 (S37)	稲熊 裕之 (S53)	石井 隆昭 (H11)
大原 康弘 (S41)	松本潤一郎 (S53)	松本 崇 (H15)
栗山 昭男 (S42)	中野 剛 (S54)	小淵 崇裕 (H26)
外村 俊夫 (S42)	山田 浩二 (S54)	



慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団 (慶應義塾)

慶應義塾ワグネル・ソサィエティーは、ドイツの大作作曲家R. ワグナーを敬慕する塾生が集って1901年(明治34年)に発足しました。ワグネルは創立後、オーケストラに合唱に、幅広く活発な活動続け、戦前には「日本のクラシック音楽界は、上野の音楽学校(官)と慶應のワグネル(民)、の両輪によって支えられた」と言われています。

発足以来、男声合唱団とオーケストラが一緒になって活動をしていましたが、戦後女声合唱団が加わり、現在では、オーケストラ・男声合唱団・女声合唱団の3団体それぞれが独立した活動をしています。2011年(平成23年)にはワグネル創立110年ということで、3団体の現役・OB・OGが一堂に集い、特別演奏会を開催いたしました。

OB合唱団は、男声合唱団の卒団生有志により、1953年(昭和28年)に結成され、以来今日まで紆余曲折はありましたが継続的に絶えることなく活動が続けています。OBの間には、男声コーラスグループの最高峰であるダークダックス、またプロのオペラ歌手として堀内康雄、大久保光哉、谷口伸、そしてジャズコーラスユニット・ジャミンゼブのスティーブ(仲光甫)などがいます。現在1,200名を超える男声合唱団OBのうち、常時80名以上が「OB合唱団」に参加しており、週1回定期的に練習を行っています。また、関西在住のOBも定期的に大阪にて練習を重ね、OB四連のほかにも定期演奏会にも一緒にステージに臨んでいます。2003年(平成15年)11月には東京芸術劇場にてOB合唱団創立50周年記念定期演奏会を開催。本年10月には第6回ガラコンサート(ステージ上の同窓会)を開催します。また、本年は4年に一度のワグナーイヤーという事で、11月の現役定期演奏会に賛助出演し、現役と共にワグナーの大曲「タンホイザー」に挑みます。

本日演奏するドヴォルジャークの「ジプシーの歌」(男声合唱版)は、OB四連では初めての演奏になります。歌曲では表現できない圧倒的なオープニングで始まる、このジプシー音楽をお楽しみください。

Top Tenor

小田澤克明 (S36)	原 久夫 (S49)	亀井 淳一 (S59)
下田 博郎 (S36)	増田 浩之 (S51)	高橋 和宏 (S59)
今井 重士 (S37)	久富 有道 (S52)	藤田 東一 (S62)
丸山 修扶 (S39)	永井 幸雄 (S53)	尾上 淳 (S63)
高谷 豊 (S40)	清水 豊 (S54)	西山 泰之 (H 8)
岡本 雅臣 (S41)	白子 幸夫 (S55)	高田 俊吾 (H 9)
小嵐 正昭 (S43)	及川 岳彦 (S57)	吉岡 大悟 (H15)
宮本 光男 (S45)	田幡 克介 (S58)	

Baritone

池田 寛水 (S36)	玉木 修 (S43)	藤田 達也 (S55)
山村 信一 (S37)	根立 正史 (S43)	阿波田 尚 (S56)
佐藤信太郎 (S38)	新井 正隆 (S44)	井生 俊介 (S57)
藤平 芳紀 (S38)	宇佐美章久 (S45)	桑田 一徳 (S58)
宇賀神一雄 (S39)	足利 光一 (S48)	田村 雄司 (S58)
早澤 信昭 (S39)	才田 芳照 (S48)	長尾 雄平 (S58)
齊藤 征彦 (S40)	清水 良一 (S48)	飛川 竜哉 (S58)
坂本 照夫 (S40)	松浦 行男 (S48)	伊藤 康弘 (S59)
竹内 靖浩 (S40)	日野 隆久 (S49)	澤口 雅昭 (S59)
米田 嗣幸 (S41)	森 裕明 (S50)	藤川 千洋 (S59)
北澤 和基 (S43)	高橋 晶二 (S52)	

Second Tenor

公森 光郎 (S37)	藤田 昭夫 (S44)	吉住 泰広 (S56)
田村 禎章 (S37)	松井 津 (S44)	翁長 良二 (S59)
佐藤 剛一 (S38)	中川 忠男 (S45)	利浩 (S59)
鈴木信一郎 (S38)	池上 義雄 (S47)	加納 一夫 (S60)
浜野 憲衛 (S38)	蒲地 隆 (S48)	山香 朗 (S60)
日野 忠彦 (S39)	今井田邦男 (S50)	中里 泰介 (S63)
佐藤 紘 (S40)	阿久津哲夫 (S51)	竹内 昭夫 (H 8)
田所 忠夫 (S40)	吉村 光生 (S51)	山田 裕慈 (H28)
清田 正隆 (S42)	野口 潤 (S56)	

Bass

村田 亮 (S28)	掛川 毅雄 (S40)	高橋 易資 (S54)
杉野 茂信 (S29)	芳川 雅美 (S40)	菅谷 勉 (S54)
古谷野 晃 (S35)	遠藤 光政 (S43)	塩野 正敏 (S56)
棚井 俊雄 (S36)	大槻 光博 (S44)	須田 和宏 (S58)
小貫格三郎 (S37)	齊藤 仁志 (S47)	船橋 博隆 (S58)
白石 昭 (S37)	吉川 信男 (S47)	小坪 俊哉 (S63)
久保田 奨 (S38)	鈴木 修二 (S48)	兒玉 昭彦 (S63)
濱本 良太 (S38)	高橋 正雄 (S48)	
池田 靖 (S39)	伊藤 俊介 (S54)	

“科学技術の進歩・発展に貢献します”

🌿 おかげさまで創業 128 周年 🌿

ヤマト科学は、技術力・生産力・調達力・販売力で、世界の多様なニーズにお応えします



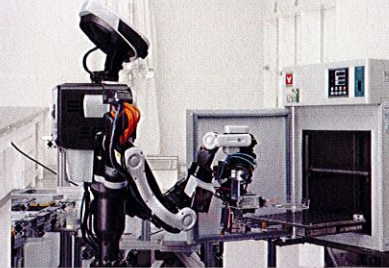
< 理科学機器 >



< 研究施設 >



< 分析計測機器 >



< 研究支援ソリューション >



< 産業機器 >



< 試験検査機器 >



本社 (COREDO 室町 1)



科学技術の進歩・発展のために

ヤマト科学株式会社

本社：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町二丁目2番1号
室町東三井ビルディング (COREDO 室町 1) 17 階

営業・サービス拠点 (国内)：札幌・仙台・前橋・筑波・北関東・千葉・東京・東京北・東京西・川崎
横浜・厚木・長野・静岡・名古屋・関西・京滋・広島・福岡

生産・開発・物流拠点 (国内)：南アルプス工場・R&Dセンター・東京技術センター・先端技術開発センター
厚木商品センター・厚木パーツセンター・厚木テクニカルセンター

海外拠点：サンフランシスコ・重慶・上海・北京・西安・広州・台北・バンコク・ケルン



南アルプス工場 (山梨)



R&D センター (山梨)



重慶工場 (中国)



“驚き”と“感動”を伝えたい

水中のゾウ

私たちは野生動物の生態や、優れた能力の紹介をしています。

富士サファリパーク

KOIZUMI GROUP
FREE FORM COMPANY

小泉グループ株式会社 東京都台東区池之端1-5-2 TEL 03-3827-5111 (代表)

(株)アバブ赤札堂・(株)東天紅・(株)海燕亭・富士サファリパーク・大分アフリカンサファリ・(株)全日本ガードシステム
(株)トラベル日本・(株)ジーエムシー・(株)ケイエフアイ・(株)サントピア・函館KGカントリークラブ

未来に、社会に。 豊かさを。

オリックスグループは「豊かな社会」を実現するために、
社会福祉、青少年の育成、環境保全などの分野で支援活動を行っています。



全国の肢体不自由児施設に、車椅子で
そのまま乗車できる福祉車両を寄贈して
います。



沖縄県内の子どもたちをご招待
して、移植用のサンゴの苗作り体
験プログラムを開催しています。



児童養護施設などの子どもたちを
オリックス・パファロースの野球観戦
にご招待しています。



フィリピンでの学校の建設や
タイでの図書館の建設など、
海外での支援活動も行っ
ています。

Palo National High School

Barangay Civilic West, Palo, Leyte

A child has the right to-

Be born. Have a name
and nationality.
Have a family who
love and care
Live in a peaceful and
wholesome community.
Have adequate food and a
healthy and active body.
Obtain a good education
and develop his/her full
potential.
Be able to play
freely and expand his/her
experience & knowledge.



オーケストラコンサートへのご招待企画を実施するなど、音楽の振興に資する活動を行っています。

ほかにはないアンサーを。



オリックス

IWA O ONUKI TENOR RECITAL 2017



小貫 岩 夫 テノールリサイタル2017

— CD「ふたりのしらべ」発売記念 —



「ふたりのしらべ」収録曲

01. アマポーラ 02. 初恋 03. 落葉松
04. 妖精の瞳 05. 忘れな草 06. グラナダ
07. セレナーデ〜ミュージカル「学生王子」より〜
08. 見果てぬ夢〜ミュージカル「ラ・マンチャの男」より〜
09. また逢う日まで 10. ふたりのしらべ

HMCCP-1009 定価 ¥3,000 (税込)

2017.8.30. wed 14:00 開場 14:30 開演
(16:30 終演予定)
全席指定 4,900 円 (税込)

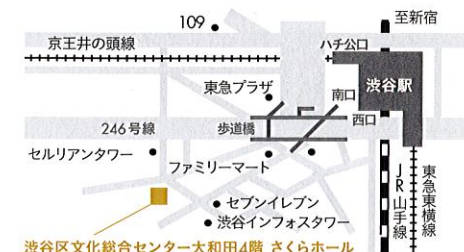
渋谷区文化総合センター大和田 4階 さくらホール (渋谷区桜丘町23-21)

【交 通】渋谷駅より徒歩5分、またはバス「渋谷駅ハチ公口」乗車→「文化総合センター大和田」下車
【主 催】(株)ビューハーツ 【後 援】TOKYO FM 【協 力】NPO 法人音楽で日本の笑顔を
【チケット発売】ローソンチケット Lコード: 31995 【電話予約】0570-000-407 (オペレータ対応 10:00 ~ 20:00 受付)
【インターネット予約】<http://l-tike.com/> (パソコン・モバイル共通)
【店頭販売】ローソン・ミニストップ店頭 Loppi で直接ご購入いただけます。

音楽監督/飯田俊明 司会進行/坂井美樹
プロデューサー/岡田秀春、昼田純一

小貫岩夫プロフィール

同志社大学卒業後、大阪音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第11
期修了。文化庁派遣でミラノへ留学。数々のコンクールで優勝・入選
する。「魔笛」タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムと共演デビュー。
ドイツ・ケムニッツ市立劇場より招聘を受け同役で出演。新国立劇
場デビューを飾ったのち、様々な舞台で活躍。二期会会員



大阪公演

2017.8.5. sat

13:30 開場 14:00 開演
全席自由 4,000 円 (税込)

大阪倶楽部 (大阪府大阪市中央区今橋4丁目4-11)

【交 通】地下鉄御堂筋線/京阪本線 淀屋橋駅 9,10 番出口 徒歩 5 分
地下鉄四つ橋線 肥後橋駅 5-A 出口 徒歩 8 分
*専用駐車場はありませんので、近隣の一般駐車場をご利用ください
【後 援】TOKYO FM (株)ビューハーツ 【協 力】NPO 法人音楽で日本の笑顔を
ピアニスト/阪本朋子

Concert Information

関西学院グリークラブ / 新月会

2017

8月25日(金) **現役**

社会福祉法人関西いのちの電話
第22回 チャリティーコンサート
@いづみホール

9月23日(土) **現役**

関西学院同窓会淡路支部主催演奏会
@洲本市文化体育館文化ホール

10月1日(日) **OB** **現役**

第48回 関西学院グリークラブフェスティバル
@関西学院中央講堂

10月8日(日) **現役**

第72回 関西合唱コンクール
@いたみホール

11月18日(土) **OB**

鶴川教会演奏会
@町田・鶴川教会

11月25日(土) **現役**

第70回 全日本合唱コンクール全国大会
@東京芸術劇場コンサートホール

12月3日(日) **現役**

第26回 関西学院グリークラブ高槻コンサート
@高槻現代劇場中ホール

12月18日(月) **現役**

関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール
@ザ・シンフォニーホール

12月20日(水) **OB**

エデンの園クリスマスコンサート
@宝塚エデンの園

12月21日(木) **現役**

関西学院クリスマス礼拝
@関西学院中央講堂

2018

1月28日(日) **現役**

第55回 関西学院高等部グリークラブ
ファミリーコンサート
@いたみホール

2月11日(日) **現役** **OB**

第86回 関西学院グリークラブリサイタル
@兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール

6月24日(日) **現役**

第67回 東西四大学合唱演奏会
@京都コンサートホール大ホール

● 関西学院グリークラブ
<http://www.kg-gee.gr.jp>

● 新月会
<http://www.kg-gee.gr.jp/index.pl/ob/>

同志社グリークラブ / クローバークラブ

2017

8月23日(水) **現役**

三大学サマージョイントコンサート
@同志社大学寒梅館ハーディーホール

10月8日(日) **現役**

第72回 関西合唱コンクール
@いたみホール

11月4日(土)・5日(日) **OB**

大阪クローバークラブ/今治特別演奏会
@日本基督教団今治教会

11月25日(土) **現役**

第70回 全日本合唱コンクール全国大会
@東京芸術劇場コンサートホール

12月9日(土) **現役**

第50回 武庫川女子大学音楽学部定期演奏会
(賛助出演)
@武庫川女子大学公江記念講堂

12月24日(日) **現役**

第53回 全同志社メサイア演奏会
@京都コンサートホール大ホール

2018

1月14日(日) **現役**

第113回 同志社グリークラブ定期演奏会
@京都コンサートホール大ホール

3月18日(日) **現役**

同志社グリークラブ第113期卒団生のための
フェアウェルコンサート
@同志社大学寒梅館ハーディーホール

6月24日(日) **現役**

第67回 東西四大学合唱演奏会
@京都コンサートホール大ホール

9月16日(日) **OB**

同志社グリークラブOBシンガーズ/第4回演奏会
@ザ・シンフォニーホール

11月17日(土) **OB**

東京クローバークラブ/
東京クローバークラブ創立60周年記念演奏会
@紀尾井ホール

● 同志社グリークラブ
<http://www.gleeclub.jp>

● クローバークラブ
<http://www.d-geeclub-ob.jp>

早稲田大学グリークラブ / 稲門グリークラブ

2017

10月15日(日) **OB**

稲門祭
@早稲田大学早稲田キャンパス

10月21日(土) **OB** **現役**

第3回 オールワセグリフェスティバル
@かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

12月3日(日) **現役**

第65回 早稲田大学グリークラブ定期演奏会
@すみだトリフォニーホール

12月24日(日) **現役**

帝国ホテルクリスマスコンサート
@帝国ホテル東京

2018

2月19日(月) **現役**

第67回 早稲田大学グリークラブ送別演奏会
@杉並公会堂大ホール

4月15日(日) **OB**

第8回 東京稲門グリークラブ定期演奏会
@大田区民ホール・アプリコ

5月5日(土・祝) **現役**

第67回 東京六大学合唱連盟定期演奏会
@文京シビックホール 大ホール

5月18日(金) **OB**

第15回 稲門グリークラブ・シニア会定期演奏会
@渋谷大和田さくらホール

6月24日(日) **現役**

第67回 東西四大学合唱演奏会
@京都コンサートホール大ホール

8月11日(土・祝) **OB**

第10回 東京六大学OB合唱連盟音楽会
@東京芸術劇場コンサートホール

● 早稲田大学グリークラブ
<http://www.wasedaglee.com>

● 稲門グリークラブ
<http://waseglee-ob.com>

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団 / OB合唱団

2017

10月9日(月・祝) **OB** **現役**

第6回 ワグネル・ガラコンサート
～ステージ上の同窓会～
@練馬文化センター大ホール

11月11日(土) **現役** **OB**

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
第142回 定期演奏会 (OB合唱団賛助出演)
@東京芸術劇場コンサートホール

12月24日(日) **現役**

帝国ホテルクリスマスコンサート
@帝国ホテル東京

2018

4月22日(日) **OB** **現役**

ワグネルファミリー・スプリングコンサート2018
@藤原洋記念ホール

5月5日(土・祝) **現役**

第67回 東京六大学合唱連盟定期演奏会
@文京シビックホール 大ホール

6月17日(日) **OB**

慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOG合唱団
第23回 定期演奏会 (OB合唱団賛助出演 (予定))
@紀尾井ホール

6月24日(日) **現役**

第67回 東西四大学合唱演奏会
@京都コンサートホール大ホール

8月11日(土・祝) **OB**

第10回 東京六大学OB合唱連盟音楽会
@東京芸術劇場コンサートホール

● 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー
男声合唱団 & OB合唱団
<http://www.wagner-society.org>

※演奏会の詳細は各団体の
ホームページをご覧ください。

こちらのQRコードで7つの
URLが一度に読み取れます。



STAFF ■ 新月会: 木田 雅夫・重松 浩・西村 紀彦 ■ ワグネル (幹事団体): 新井 正隆・桑田 一徳
■ クローバー: 小林 啓・松本 崇 ■ 稲門グリー: 木村 寛之・小岩 寿樹・溝田 俊二
■ 稲門グリー: 飛川 竜哉・松浦 行雄・吉川 信男

第21回 東西四大学OB合唱連盟演奏会プログラム 平成29年7月23日(日)

● 発行: 東西四大学OB合唱連盟 ● 編集: 塩野 正敏 / 染谷 総子 (有限会社 片野印刷) ● 印刷: 有限会社 片野印刷